

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

鷹取中学校区	校番 4	福山市立鷹取中学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容 ・地域を大切に思う児童生徒を育成してほしい。 ・コミュニティスクール導入にあたり、地域にも説明し、どんな協力体制が築けるか一緒に考えたい。 ・児童生徒と共に会議をし、地域課題を考えていきたい。	児童生徒の現状 ・基礎学力はおおむねついているが、思考力に課題がある。 ・人間関係づくりが苦手な子どもが増えてきている。 ・長欠・不登校の子どもが一定数いて取組をしているが改善が難しい。	育成する 資質・能力 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	知識・技能 課題発見・解決力 主体性 気づき 考え 行動する 子ども ・子どもたちが「わかる・できる」と思える教育活動の推進 ・地域課題に気づき、地域とともに課題解決できる児童生徒の育成。 ・教職員の笑顔・元気
---------	---	--	---	---

III 自校	ミッション 霞小・光小と連携しながら、資質・能力の育成を図ることを通して地域に誇れる学校を創造する。	学校教育目標 挑戦する心を持ち、未来を創造できる生徒の育成	現 状 ＜児童生徒＞ ○生徒は非常に素直で、課題等やらなければならないことはやろうと努力する生徒が多い。また、自分の意見や考えをもち、それを文章にする力や表現する力がついてきている。しかし、基本的な知識や用語の定着、その知識を活用して説明する力はつけきれていない。 ＜授業＞ ○各教科 ICT を活用し、生徒の学習意欲を高める工夫をしながら授業を進めている。 ○授業の中で指導者があらかじめ教材や方法をすべて準備しているため、子どもが、見通しをもって単元内で自分の学習計画を立て、課題も自分で考え探究する教科が少ない。子どもたちが、自分の学び方を選び、学びをデザインできるような授業を目指したい。	育成する 資質・能力 めざす 子ども像	知識・技能 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けている。	課題発見・解決力 問いを見だし、その解決にむけて仮説を立てたり、結果を予測しながら実行したり、調査して得た情報を元に自分の考えを形成・表現したりするとともに、仲間と互いの考えを伝え合うことで多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりすることなどをとおして課題解決したことを、次の課題発見・解決につなげていくことができる。	主体性 すべての学習や活動に主体的・協働的に取り組むとともに、仲間と互いの良さを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとしている。
				研究	テーマ 生徒が「考え」「わかる」「できる」授業づくり		
					内容等 ～ 挑戦し、自らの学習を自ら考え、デザインできる生徒の育成 ～		
				めざす授業の姿	考える仕掛けのある授業 多様な自己表現の場がある授業 学びの価値が感じられる授業 子どもが自ら「決められる」場がある授業	分かる・できたを感じる授業 学びが面白いと感じる授業 もっと知りたいと感じる授業 次へ繋がるふりかえりのある授業	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立鷹取中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							目標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	目標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
2	子どもたちが 「わかる・で きる」と思え る教育活動の 推進	1	継 続	・「分かった・でき た」が実感できる 授業づくりを推進 する。 ・個に応じたきめ細 やかな支援を工夫 する。	・ICTを活用した鷹取 中学校探究スタイル を推進する ・各授業で自分の学 び方等についての ふりかえりをさせ、 それに対して適切 なフィードバック を行う。 ・縦割り集団で活動 する場を設定し、リ ーダーを中心に生 徒主体の行事づく りを進める。	・授業に関するアンケ ート項目肯定的評価 85%以上 ・生徒主体の活動に関 するアンケート項目 肯定的評価85%以 上 ・長欠不登校生徒の割 合昨年度より減少 (昨年度9.7%)	・学習方法を計画 して学習する場 が設定されてい る80% ・学び方を振り返 る場が設定され ている90%	4	4	・各教科で自分の考え をもち、班や全体で 交流し、さらに自分 の考えを深める取 組を設定し、教科や 学校全体で取り組 み状況について研 修を行う。 ・次のリーダーを育成 するための仕組み づくりを計画する。 ・きめ細かい生徒指導 および教育相談を 継続する。	・学習方法を計画 して学習する場 が設定されてい る87% ・学び方を振り返 る場が設定され ている93%	4	4	4	・学びの地図を提示 し、学習課題に向け て、自ら取組を考 え、取組内容を振り 返ることで、学力の 定着につながって いる。 ・自らの意見を持ち、 表現する活動を学 校全体で進めてい く。 ・委員会や生徒会の取 組を広げ、生徒主体 で日々の学習や生 活について考える 活動や行事を増や していく。
1	地域課題に気 づき、地域と ともに課題解 決できる児童 生徒の育成	2	新 規	・地域との運動を進め ながら、地域に貢献 できる生徒の育成を 目指した取り組みを 進める。	・地域の人材を活用 した授業づくりを 行う。 1年：SDGsと福 山の企業との 関り 2年：職場体験に よる地域人材 との連携 3年：SDGsの目標 達成に向けて	・地域との関わりに関 するアンケート項目 肯定的評価80%以 上	・あいさつ運動等 を通して、地域 と関わり、貢献 できている73% ・「笑顔であいさつ 日本一」を意識 している84%	3	3	・コミュニティスク ールの活動を通して 挨拶の大切さを実 感させるとともに、 地域と関わる取組 に積極的に参加で きる土台作りを継 続して行う。	・あいさつ運動等 を通して、地域 と関わり、貢献 できている82% ・「笑顔であいさつ日 本一」を意識して いる85%	4	4	4	・コミュニティスク ールの取組を受 け、挨拶をする生 徒が増えた。地域 の課題について 考えるきっかけ となった。
1	教職員の笑顔・ 元気	3	新 規	・幸せな職場環境の実 現を進める。	・教職員が設定した 目標や感じた課題 を交流・改善する場 面を設ける等、学校 全体でつながる機 会の設定 ・学年や分掌で、役割 分担・取組の共有を 行い、業務の効率化 を進め、定時退校日 に定時退校できる ようにする。	・教職員アンケート 「支え合う職場環 境」に関するアンケ ート項目肯定的評価 80%以上 ・時間外勤務45時間 以内の達成率70% 以上	・「相談できる雰 囲気がある(同 僚がいる)」 94.5% ・時間外勤務45 時間以内の達成 率79.2%(9月 末)	4	3	・相談しやすい環 境を整える。 ・時間外勤務45 時間以上の教職 員と面談し、業務 が偏っている場 合は業務の再分 配を行う。	・学年会や分掌会、教 科会を開き自分の考 えを伝えやすい環境 をつくった。また、各 学年主任と適宜面談 を行い、進捗等の確 認を行った。 ・時間外勤務45 時間以内の達成 率82.3%(1月 末)。勤務終了時刻 後1時間を目途に 退勤できるように なった。	4	3	3	・主任・主事を中 心に課題を相 談し、改善に向 けた動きがと れた。 ・業務の精選やス ケジュール管 理を行うとと もに、生徒に向 き合う時間を 確保した。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。